

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200055		
法人名	医療法人栄仁会		
事業所名	栄仁会グループホームやまぶきの郷Bユニット		
所在地	宇治市菟道段の上20-1		
自己評価作成日	2014年12月12日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691200055-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2691200055-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年1月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者、家族、主治医、スタッフが一丸となって常に連携をとり、各々の役割から、御利用者の満足に力を入れる支援をしている。御利用者の意向を、受持ち中心として伺い把握し、どんなことでも家族に電話で話し、御利用者や家族の橋渡しをしている。主治医は、夜間、休日に関係なく、こちらからのオンコールに迅速に足を運んで往診し、医療面での連携もとても充実している。菟道地区を中心に、行事への参加、交流、継続的なボランティアの確保も強化してきており、今後更なるやまぶきの郷のピーアールに励んでいきたい。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示し、常に、その人らしさを考えケアするように努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理容室、菟道地区の夏祭り、花笠巡行、やまぶき祭りへのお誘い、あさひ保育園との交流会、地域の消防団への加入、近所の方の家事ボランティア等、他施設のお祭りにも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校二校の職場体験を受け入れ、認知症、高齢者介護について学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能居宅介護と合同で行い、その場で出される意見は必要に応じてスタッフ間で話し合い、互いの理解を深め、全体の理解を深めている議事録を毎回市役所に提出し、市の職員も参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員派遣事業を受けており、終わりには必ず総括をし、客観的な第三者からの意見を聞き入れ、振り返る時間を設けている。後日送られてくる報告を会議で読み合わせ、これからのケアに活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やまぶき内での身体拘束は今までにない。身体拘束の研修を行い、拘束への理解、何が拘束にあたるのかを学び、全員に周知徹底した理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	九月に高齢者虐待の研修を行った。普段の着脱介助、入浴介助等で体にあざ等ないか確認している。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を使われている方がおられ、実際、事例も踏まえた内容が、スタッフ間において理解を深められる機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明、質疑応答を行い、契約後も必要に応じて、契約時の内容を繰り返し説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アウトカム評価を実施し、その評価について話し合い改善に取り組んでいる。アンケートの内容を施設内に掲示、御家族に郵送し、家族懇談会においても改善、理解に向けての話し合いを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議、週一回のユニット会議において出た意見、提案、要望等を話し合い、反映、改善させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面接を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受けた者は、伝達研修を行っている。研修の案内を全員に告知し、知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の職員に職場研修の場を提供し、互いに意見交換をして振り返り、新たな知識の獲得、スキルアップの向上を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時、御家族に基本シートを記入して頂いている。入所後、更に御本人、御家族、スタッフで話を詰め、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族のニーズ、心配事、希望をしっかりと聞き、安心した毎日を過ごせるように、話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	運営規程に地域の方優先をうたっている為、エリア外の方には他サービスを紹介している。又、やまぶきの郷小規模多機能の御利用者が、グループホームへの入所の流れとなることが可能性として高いことを説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事のメニューを決めたり、洗濯物をたたんだり、出来る事をスタッフと一緒にして頂くように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	アウトカム評価を行い、御家族の思いをくみ取ったり、毎月の手紙やレクリエーション、家族会への参加の呼びかけ等、関係を途切れさせない努力をしている。又、誕生日会を御家族を交えてお祝いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	毎月、老人会のお誘いがあり、地域の老人会に参加されている。馴染みの喫茶店では昔話に花が咲いた。外出時、慣れ親しんだ場所を訪れた。(京都八条口、伏見等)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲がこじれた御利用者も、一緒に外出することで仲が良くなったりと、さり気ない援助で、御利用者同士の関係の支援を行っていただけるように心がけている。食事の時間をずらしたり、テーブルの配置を変えたり、工夫している。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、それぞれの機関への問い合わせ、看取りに関しては御家族の思いを取り入れたケアで、スタッフで最後のお見送りまでさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本音を聞き出すように努力している。又、御家族からも昔の暮らしを伺い、ケアに繋げている。センター方式シートの定期的な見直しを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートの記録の充実。御家族から新しい情報があれば、すぐにシートに共有し伝達している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御利用者の状態の変化を敏感に感じ取り、その都度、御家族、主治医、看護師に報告し指示を仰いでいる。又、受け持ち中心に生活スタイルを見直している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族を交えて、スタッフとの意見交換の場を持つようにしている。医療機関との連携も密に取っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式シートを活用することで分析ができ、問題解決へと繋げている。年一回、シート記入の研修も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	よく乗っていた京阪電車で、よく通った大手筋や洋服店、お茶屋を訪れた。既存サービスに捉われず、御利用者の思いを実現する為、御家族の理解、スタッフのチームワークがある。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店により訪問カット。やまぶき祭りではチラシ配布、ポスター掲示。菟道地区の納涼祭、花笠巡行に参加し互いに交流を深めている。地域の消防団に加入し合同の消防訓練。近所の方の家事ボランティアも受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の訪問診察を実施している。それ以外にも、少しでもお体に変化があれば、御家族に報告を行い、その都度、主治医に連絡、往診を受け連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアの中での気づき(表情、食欲、排泄、皮膚状態)をD-4シートに記入しその都度、看護師に報告、連絡、相談し異常の早期発見に努めている。夜間はオンコールにて24時間の連絡体制をとっている。看護の面、介護の面、互いに切磋琢磨な意見の交換が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のカンファレンスに御家族、主治医、ケアマネ、看護師、介護スタッフが参加し、その時の病状に応じた治療方針、早期退院できるよう、密に行い努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	C-1-2シートに御本人、御家族の思いを記入し、エンディングノートとして活用している。今年看取った御二人の方々については、何度も御家族、主治医、スタッフ間で終末期に向けて、ケアのあり方を話し合い、御家族の意向に沿った終末期を迎えて頂いた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のスタッフの行動をマニュアル化、研修をし、六ヶ月に一回救命講習、AED訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月に一回、火災訓練を実施している。職員の提案により、地震の避難訓練、救命救急講習、AED講習を実施している。地域の消防団として、消防署と連携を取り、訓練している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	二ヶ月に一回、接遇委員会による接遇の研修を行っている。正職員全員、外部の接遇研修に参加し、今まで自分達では気付かなかった視点、観点からより深いプライバシーの保護に努めるよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	受け持ちを中心として、その都度、御利用者の思いやニーズを把握し、御家族、他スタッフの知恵を借り、その人らしさの表現を、ありのまま支援できるよう聴取している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の施設の流れを一辺通りに決めるのではなく、御利用者一人一人の体内時計に合わせ、その都度、声掛けを行い、行動を選択して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	長年の身だしなみの習慣を継続して頂けるよう、お化粧、お着替えのお手伝いをしている。その結果、年齢に関係なく、いつまでも美しくありたいという女性ならではの眠っていた気持ちが向上し、御自分でもよりお洒落に着飾れるようになった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昔作っておられた干し柿を作った。咀嚼、嚥下が安全に行えるよう、食前には嚥下体操をスタッフと一緒にやっている。野菜の下ごしらえをしたり、その方に合ったテーブルセッティングを行い、楽しく食事が出来るよう、工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が自分では口に運べない方にはD-3シートを活用し、一日の水分量を摂取できるよう支援している。食事量や栄養バランスは、管理栄養士に献立表を提出し、栄養表を見て会議にかけ、改善している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分でうがいの出来ない方には、ハミングドを使用し、歯科衛生士による口腔ケアの指導を受け、清潔保持に努めている。義歯利用の方には、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	D-3シートを活用し排泄のタイミングをはかれている。機嫌の良い方には時間をずらす等工夫をしている。自発的に希望された方には、夜間の転倒リスク軽減も踏まえ、居室にポータブルトイレを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事で便秘に良い物を取り入れたり、排便パターンを掴んで下剤の時間をずらす等、服薬の調整もしている。主治医、看護師共に排便コントロールの状況を伝え、その都度相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	グループホームには特浴がないので、浴槽に浸かれない方は小規模の特浴を借りて入って頂いている。入浴剤やゆず湯、温泉の素を入れて、季節のお湯を楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で過ごされたり、リビングで過ごされたり、御本人の意見を聞いて決めて頂いている。また、アロマを焚いたり、温かい飲み物で眠気を誘ったりと、その時々気持の変化に対応するよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各受持ちは必ず服薬の知識を持ち、主治医、看護師、薬局との連携を図っている。また、日常生活をみて疑問に思った事は往診時、主治医に問うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近くのスーパーでスタッフと買い物をしたり、テーブルの台拭き、お皿洗い、趣味のオセロや園芸等、楽しみにされていることをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望にそって映画、宝塚歌劇、奈良、南座、以前住んでおられた地域の老人会、昔買い物をしておられた洋服店、生花展覧会等に、時には電車も利用して出向いたり、楽しみが増えるよう考え実行している。		

栄仁会グループホームやまぶきの郷Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自お小遣いを金庫で管理し、買い物、外食等、御家族に連絡の下、自由に使えるようにしている。家族申告によりお金を持っておられる方は、御自分で持っているお金を使っている。御自分で出すことによって安心感がわく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御自分の部屋に電話を引いておられる方がいる。友人からの電話を受けたり、家族に電話をしておられる。そうでない方も事務所の電話を利用し、自由に電話を掛けられるようにしている。友人に年賀状を出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月に2回ある生花で旬の花に触れ、季節感を楽しんで頂いている。四季の木々の移り変わりの様子から、今の季節を感じて頂いている。玄関や中庭では園芸をし、そこで収穫した野菜を食べたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	周りの声をひろって混乱される方やお独りが好きな方には、静かに過ごして頂けるよう、食事の時間をずらす等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や好きな物(犬や猫の写真、孫にもらった絵)を飾ったり、馴染みの家具やテレビ、ラジカセ等、お好きな物をお好きな様に配置し、御自分の家の様だと安心できる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者様が使いやすい様にリビングのテーブルの位置を工夫したり、それぞれのテーブルにスタッフが入り関わりができるように工夫している。		